

事 務 連 絡

令和 3 年 1 月 1 8 日

都道府県民生主管部（局）
国民健康保険主管課（部）御中

厚生労働省保険局国民健康保険課

医療保険者等向け中間サーバー等における不開示該当フラグ・自己情報
提供不可フラグによるオンライン資格確認等システム関連情報の制御およ
び運用例の送付について（市町村向け）

平素より、国民健康保険制度の円滑な実施につきましては、格段の御協力、御尽力を賜り
厚く御礼申し上げます。

市町村の皆さまにおかれましては、令和 2 年 1 1 月 1 3 日付事務連絡「市町村におけるオ
ンライン資格確認の導入に係る準備作業等について（依頼）【別添 2】」等に基づき、DV・
虐待等被害者の保護について不開示該当フラグ・自己情報提供不可フラグ（以下、DVフラ
グ）の設定のご対応をいただいているところですが、今般、別添「DVフラグによるオンラ
イン資格確認等システム関連情報の制御（市町村向け）」を整理いたしましたので、今後の
DVフラグの設定にご活用いただきますようお願いいたします。

都道府県におかれましては、貴管内の市町村への周知をお願いいたします。

以上

**DVフラグによるオンライン資格確認等
システム関連情報の制御
(市町村向け)**

はじめに

オンライン資格確認等システムの導入により、マイナポータルや保険医療機関等で以下の情報を閲覧することが可能となります。

- ・マイナポータル : 資格情報・特定健診情報等・医療費通知情報・薬剤情報
- ・保険医療機関 : 資格情報・特定健診情報等・薬剤情報
- ・保険薬局 : 資格情報・特定健診情報等※・薬剤情報

※ 11月12日（木）に開催された第133回社会保険審議会（医療保険部会）での審議を踏まえ、保険薬局においても特定健診情報の閲覧が可能となりました。

今般、上記運用の開始に伴い、**医療保険者等向け中間サーバーに実装されている不開示該当フラグ、自己情報提供不可フラグを用いたマイナポータルや保険医療機関等でのDV・虐待等被害者（DVや虐待等の被害を受けるおそれがある者を含む。以下「DV被害者」という。）の上記個人情報の表示制御方法および医療保険者等向け中間サーバーにおける上記フラグの運用例**について、以下の通り整理いたしました。

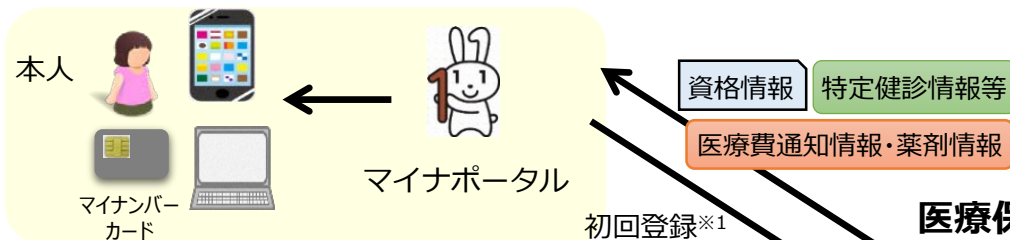
1. マイナポータルや保険医療機関等におけるDV被害者の個人情報の表示制御
 - 1-1. 資格情報、特定健診情報等、医療費通知情報、薬剤情報の閲覧の仕組み ⇒ P.3~5
 - 1-2. 市町村国保における不開示該当フラグ及び自己情報提供不可フラグによる制御について ⇒ P.6~9
 - 1-3. 課題と対策
 - 1-3-1. 課題と対策①「**マイナポータルでの情報閲覧時**」⇒ P.10
 - 1-3-2. 課題と対策②「**保険医療機関等におけるマイナンバーカードでのオンライン資格確認時**」⇒ P.11
 - 1-3-3. 課題と対策③「**保険医療機関等における被保険者証でのオンライン資格確認時**」⇒ P.12
 - 1-3-4. 課題と対策④「**大規模災害・システム障害時のオンライン資格確認時**」⇒ P.13
 - 1-4. 留意事項：初回登録を実施できない場合について⇒ P.14
 - 1-5. 情報提供可否の判断方法 ⇒ P.15
2. （参考）医療保険者等向け中間サーバーにおけるDVフラグの運用例
 - 2-1. （参考）医療保険者等の取る基本的なアクション例⇒ P.17
 - 2-2. （参考）DV被害者によるDVフラグの設定・解除に係る運用フロー（例）⇒ P.18,19

1. マイナポータルや保険医療機関等における D V 被害者の個人情報表示制御

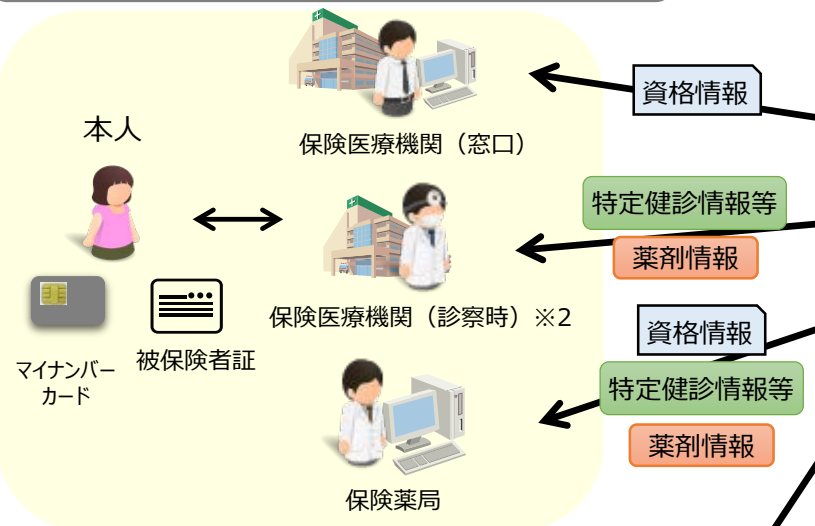
1-1. 資格情報、特定健診情報等、医療費通知情報、薬剤情報の閲覧の仕組み（1/3）

オンライン資格確認等システムの導入により、被保険者等はマイナポータルや保険医療機関等で以下の情報を閲覧することが可能となる。各情報を閲覧するにあたり、加入者はマイナポータルにおける初回登録（マイナンバーカードを被保険者証として利用するための手続き）※1を行う必要がある。

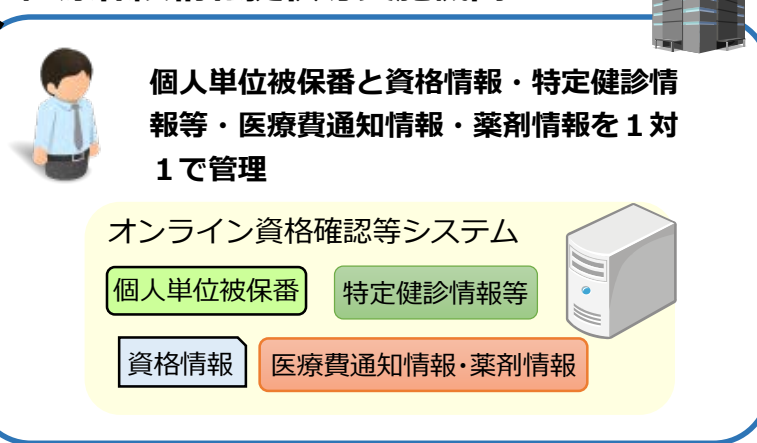
マイナポータルでの閲覧※3・初回登録※1



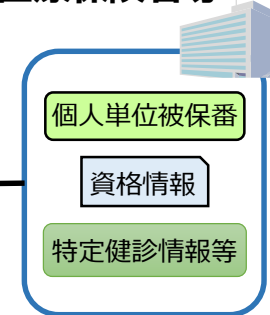
保険医療機関等での閲覧※3



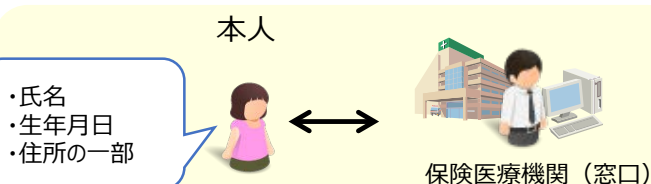
医療保険情報提供等実施機関



医療保険者等



大規模災害・システム災害時の閲覧※3



※1 初回登録の仕組みおよび留意事項はP.14を参照。

※2 患者が窓口において、マイナンバーカードを用いて本人同意を行った場合に、特定健診情報等、薬剤情報の閲覧が可能となる。

※3 各情報の閲覧イメージはP.4,5を参照。

1-1. 資格情報、特定健診情報等、医療費通知情報、薬剤情報の閲覧の仕組み（3/3）

大規模災害時においては、マイナンバーカードや被保険者証を持参していない場合においても、氏名、生年月日、住所または保険者名を確認することで資格確認が可能となる。資格確認における閲覧イメージは以下の通り。

大規模災害時の閲覧イメージ

公的医療保険オンライン資格確認システム
資格情報照会(大規模災害)

サンプル医療機関名
アプリ開発 0.4

？ ログアウト

検索条件: マイナンバーカード券面情報 * 必須項目 ※1, ※2 選択必須項目(どちらか一方はご入力ください)

① 氏名: 松岡 三十六大 ※1氏名(カナ):

※2住所: 東京都北区王子

検索

クリア

*性別: 男性

① 生年月日: 平成 7 年 2 月 16 日

※2保険者名:

*資格確認日: 2020/03/06

複数の資格該当者が見つかりました。資格確認の該当者を以下から選択してください。

② 検索結果: 1 件

氏名	生年月日	性別	住所	保険者名
※1氏名(カナ) 松岡 三十六大	平成7年2月16日	男	東京都北区王子 3 3 - 3 3 - 3 3	公立学校共済組合 ○●支部

メニュー 戻る

① 本人確認の際の必須項目

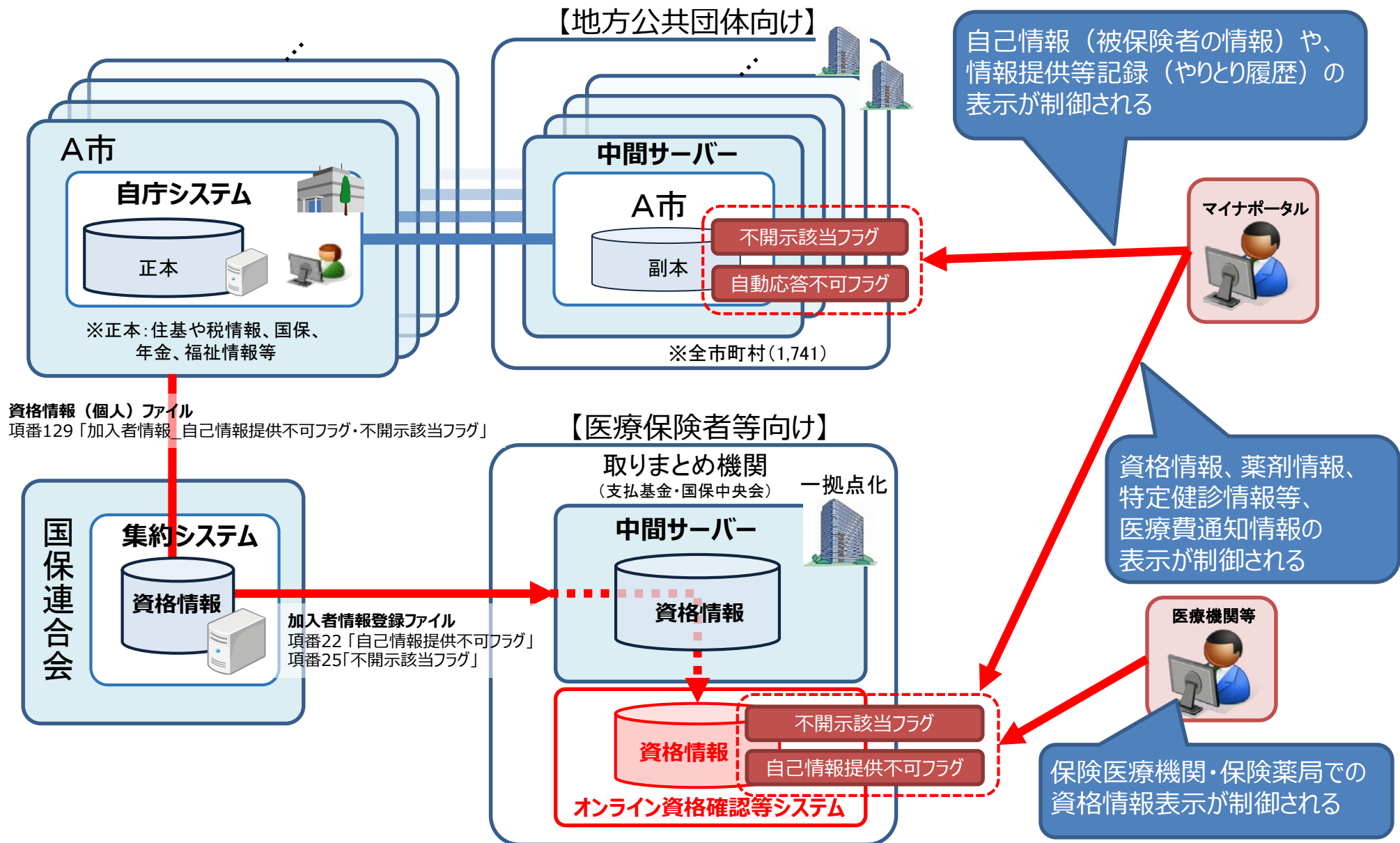
- ① 氏名 or 氏名 (カナ)
 - ② 生年月日
 - ③ 住所 or 保険者名
- ※氏名、氏名 (カナ)、性別、生年月日については完全一致
住所、保険者名は部分一致

② 「氏名」、「生年月日」、「住所等の一部」の項目を入力すると、検索結果に候補者一覧が住所付きで表示される。住所については、前方 10 文字程度のみ表示する。

※大規模災害時やシステム障害時において、薬剤情報、特定健診情報についても、災害時用の画面から参照可能。
なお、情報提供の本人同意については、医療従事者が患者から提供可否を聞き取り、資格確認端末上で、同意ボタンを押す運用となっている。

1-2. 市町村における不開示該当フラグ及び自己情報提供不可フラグによる制御について（1 / 4）

○設定により各種情報の表示が制御される。



1-2. 市町村における不開示該当フラグ及び自己情報提供不可フラグによる制御について（2 / 4）

- DV被害者（※）のマイナンバーカードを加害者が不正に取得した場合、加害者がマイナポータルから被害者の各種情報（資格情報、受診医療機関等）を閲覧することができてしまうため、オンライン資格確認等システムで加害者による各種情報の閲覧を抑止するために、DV被害者については、情報集約システム（国保連合会）に抑止用コードを連携し、系統的に制御（閲覧不可）を行う。
※避難先市町村に住民票を移しているか、住民基本台帳事務におけるDV等支援措置の対象者であるか否かを問いません。
- 情報集約システムへ連携する資格情報（個人）ファイルの項番129「加入者情報_自己情報提供不可フラグ・不開示該当フラグ」に抑止用のコードを設定することで、マイナポータルからの資格情報、薬剤情報、特定健診情報、医療費通知情報の閲覧を抑止し、保険医療機関・保険薬局でのオンライン資格確認においても同様に抑止を行う。
- 情報集約システムへ連携している資格情報（個人）ファイルの項番47「基本情報_送付物抑止フラグ（個人単位）」に既に「1：DV」または「2：その他」を設定し連携している場合、項番129にも抑止するためのコードを設定する必要がある。
※項番47に設定している情報は国保連合会向け（国保総合システムで使用する情報）のため、オン資格へは連携されません。

	提供可能	提供不可
自己情報 提供不可フラグ	<ul style="list-style-type: none"> マイナポータルから以下の情報の<u>閲覧ができる</u> 資格情報、薬剤情報、特定健診情報等、 医療費通知情報 医療機関等でのオンライン資格確認時に、 <u>住所情報等が画面に表示される</u> 	<ul style="list-style-type: none"> マイナポータルから左記の情報の<u>閲覧ができない</u> マイナンバーカードによる医療機関窓口での<u>資格確認が行えない</u> 被保険者証による資格確認時に<u>住所情報等が画面に表示されない</u>
	開示	不開示
不開示該当フラグ	<ul style="list-style-type: none"> 医療機関等でのオンライン資格確認時に、 <u>住所情報等が画面に表示される</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 医療機関等でのオンライン資格確認時に、<u>住所情報等が画面に表示されない</u>

1-2. 市町村における不開示該当フラグ及び自己情報提供不可フラグによる制御について（3 / 4）

情報集約システムへ連携する資格情報（個人）ファイルの項番129「加入者情報_自己情報提供不可フラグ・不開示該当フラグ」に設定されたコードにより医療保険者等向け中間サーバーに連携する値は以下のとおり

資格情報（個人）ファイル

情報集約システム		医療保険者等向け中間サーバー	
項番129「加入者情報_自己情報提供不可フラグ・不開示該当フラグ」		自己情報提供不可フラグ (加入者情報ファイル_項番22)	不開示該当フラグ (加入者情報ファイル_項番25)
0	提供可能 ・ 開示	0 : 提供可能	0 : 開示
1	提供可能 ・ 不開示	0 : 提供可能	1 : 不開示
2	提供可能 ・ 更新しない	0 : 提供可能	2 : 更新しない
3	提供不可 ・ 開示	1 : 提供不可	0 : 開示
4	提供不可 ・ 不開示	1 : 提供不可	1 : 不開示
5	提供不可 ・ 更新しない	1 : 提供不可	2 : 更新しない
6	更新しない ・ 開示	2 : 更新しない	0 : 開示
7	更新しない ・ 不開示	2 : 更新しない	1 : 不開示
8	更新しない ・ 更新しない	2 : 更新しない	2 : 更新しない

- 初回連携時に「更新しない」を設定した場合
情報集約システムに「更新しない」を連携した場合、医療保険者等向け中間サーバーでは、自己情報提供不可フラグを「0 : 提供可能」とし、「更新しない」については、不開示該当フラグを「0 : 開示」として設定します。
- 初回連携時以降に「更新しない」を設定した場合
初回連携時の結果も含めて中間サーバー内に登録されている値を更新せずにそのままの値とします。
- ※ DV被害者に対して初回連携時に「更新しない」を設定した場合、上記のとおり「提供可能」及び「開示」として連携されているため、抑止するコードを再連携する必要がある。

1-2. 市町村における不開示該当フラグ及び自己情報提供不可フラグによる制御について（4 / 4）

不開示該当フラグおよび自己情報提供不可フラグの制御内容は以下の通り。

課題①～④への対策（P.9～12）参照

情報 提供元	提供される情報		DVや虐待等を受けている被保険者		通常の被保険者	
	提供される情報	情報の内容	マイナポータル	保険医療機関・保険薬局	マイナポータル	保険医療機関・保険薬局
オンライン資格確認等システム	資格情報	マイナポータルでの資格情報閲覧時	対策① ×	—	○	—
		マイナンバーカードを使用したオンライン資格確認時	—	対策② ×	—	○
		被保険者証を使用したオンライン資格確認時	—	対策③ ○※1 住所・郵便番号は非表示	—	対策③ ○※2 住所・郵便番号は非表示
		大規模災害・システム障害時のオンライン資格確認時	—	対策④ ○※1 住所・郵便番号は非表示	—	対策④ ○※2 住所・郵便番号は非表示
	薬剤情報	氏名、生年月日、性別、保険者番号、被保険者番号、診療年月日、医療機関名（マイナポータル上のみ）、薬剤名	×	対策② ×	○	○
	特定健診情報等	資格確認日、医療機関コード、保険者番号、被保険者番号、生年月日 等	×	×	○	○
	医療費通知情報	保険者番号、審査年月、被保険者番号、生年月日、診療年月、医療機関コード、医療費総額 等	×	—	○	—
	医療保険者等向け 中間サーバー上の 設定値	資格情報（個人）ファイルの項番129のコード値により、医療保険者等向け中間サーバーに設定されるコード値	自己情報提供不可フラグ	1：提供不可	自己情報提供不可フラグ	0：提供可能
			不開示フラグ	0：開示（3） 1：不開示（4）	不開示フラグ	0：開示（0） 1：不開示（1）
	資格情報（個人）ファイル	項番129 「加入者情報_自己情報提供不可フラグ・不開示該当フラグ」の設定値	3※1、4※1 マイナンバーカードを利用した照会を抑止		0、1※2	

※1 「3」または「4」を設定することで、DV被害者が被保険者証でオンライン資格確認を実施した場合や大規模災害時に住所・郵便番号が非表示となる
※2 通常の被保険者であっても「1」を設定することで住所・郵便番号が非表示となる

【凡例】 ○：表示する ×：表示しない —：制御しない

1-3-1. 課題と対策①「マイナポータルでの情報閲覧時」

○ 課題

D V被害者が加害者の所在地にマイナンバーカードを置いたまま避難した場合や、マイナポータルにおいて加害者を代理人設定している場合に、加害者がマイナポータルよりD V被害者の資格情報から避難先の特定につながる**保険者名**、**特定健診情報**や**薬剤情報**の**受診医療機関名等**が閲覧可能となる。

○ 対応策

情報集約システムへ連携する資格情報（個人）ファイルの項番129「**加入者情報 自己情報提供不可フラグ・不開示該当フラグ**」に「**3、4**」を設定することで、医療保険者等向け中間サーバー等における**自己情報提供不可フラグ**に「**1：提供不可**」が設定され、情報提供を制御する。

資格情報（個人）ファイル

項番129「加入者情報_自己情報提供不可フラグ・不開示該当フラグ」に**0、1**を設定

医療保険者等向け 中間サーバー	自己情報提供不可フラグ 「0：提供可能」の場合
--------------------	----------------------------

医療保険情報提供等実施機関

オンライン資格確認等
システム

資格情報

特定健診情報等

医療費通知情報・薬剤情報

加害者

被害者
(避難先)

被害者の
マイナンバー
カード

マイナポータル

資格情報（個人）ファイル

項番129「加入者情報_自己情報提供不可フラグ・不開示該当フラグ」に**3、4**を設定

医療保険者等向け 中間サーバー	自己情報提供不可フラグ 「1：提供不可」の場合
--------------------	----------------------------

医療保険情報提供等実施機関

オンライン資格確認等
システム

資格情報

特定健診情報等

医療費通知情報・薬剤情報

加害者

被害者
(避難先)

被害者の
マイナンバー
カード

マイナポータル

1-3-2. 課題と対策②「保険医療機関等におけるマイナンバーカードでのオンライン資格確認時」

○ 課題

D V被害者が加害者の所在地にマイナンバーカードを置いたまま避難した場合、加害者（医療従事者の場合）がD V被害者のマイナンバーカードを利用し、**資格確認端末から被害者の住所等が閲覧可能**となる（加害者がパスワードを把握していなければ閲覧不可）。また、加害者が患者（なりすまし）として、D V被害者のマイナンバーカードを利用して資格情報を確認することも想定される。

○ 対応策

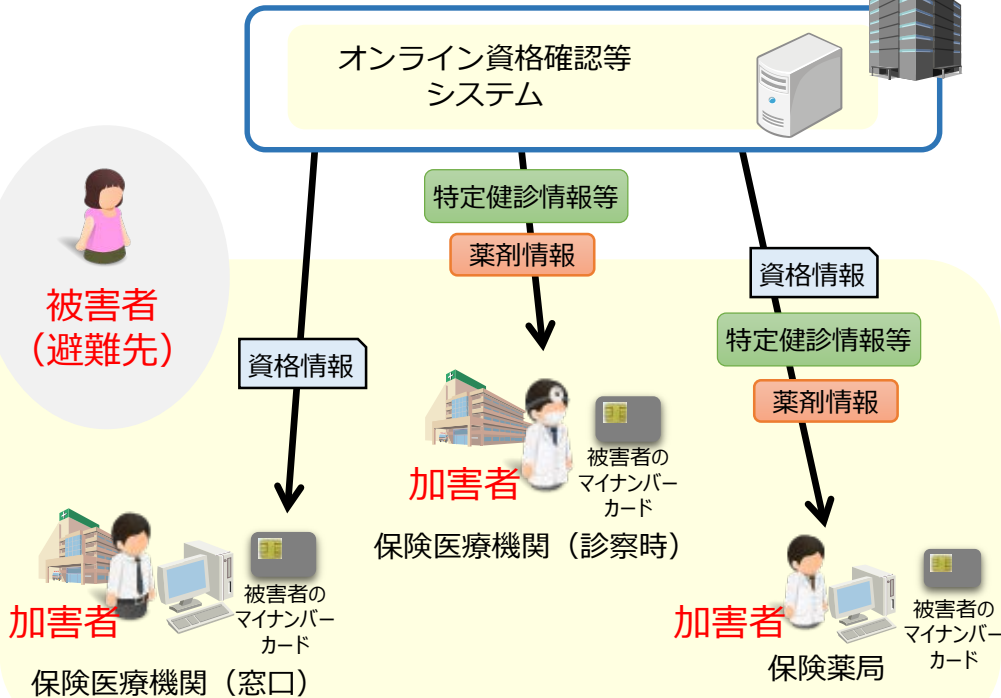
情報集約システムへ連携する資格情報（個人）ファイルの項番129「**加入者情報 自己情報提供不可フラグ・不開示該当フラグ**」に「**3、4**」を設定することで、医療保険者等向け中間サーバー等における**自己情報提供不可フラグに「1：提供不可」**が設定され、情報提供を制御する。

資格情報（個人）ファイル

項番129「加入者情報_自己情報提供不可フラグ・不開示該当フラグ」に**0、1を設定**

医療保険者等向け 中間サーバー	自己情報提供不可フラグ 「0：提供可能」の場合
--------------------	----------------------------

医療保険情報提供等実施機関

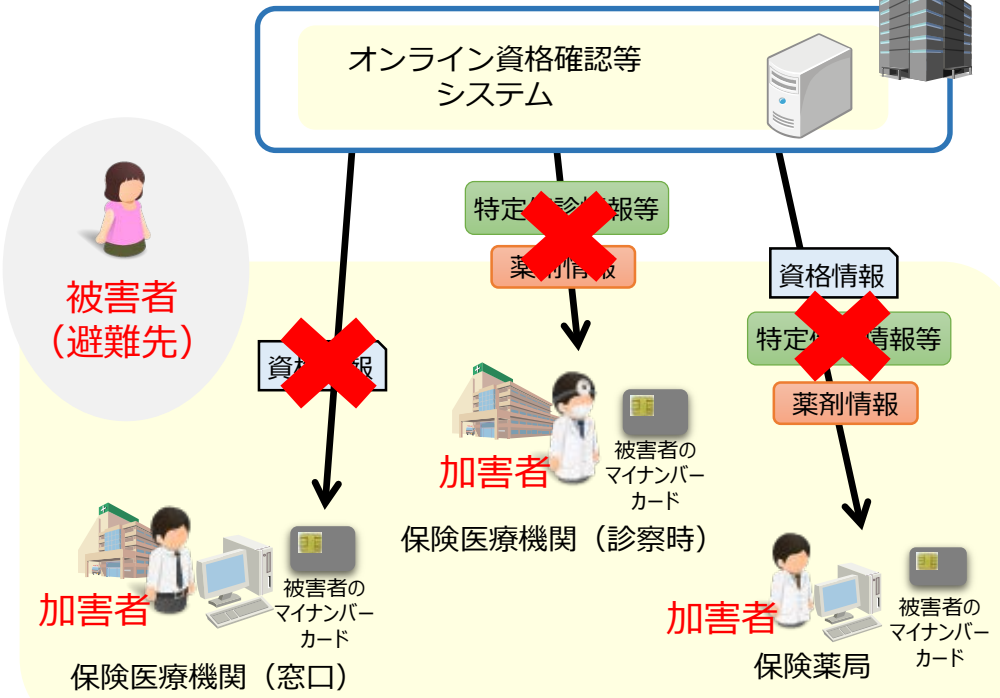


資格情報（個人）ファイル

項番129「加入者情報_自己情報提供不可フラグ・不開示該当フラグ」に**3、4を設定**

医療保険者等向け 中間サーバー	自己情報提供不可フラグ 「1：提供不可」の場合
--------------------	----------------------------

医療保険情報提供等実施機関



1-3-3. 課題と対策③「保険医療機関等における被保険者証でのオンライン資格確認時」

○ 課題

加害者（医療従事者の場合）がDV被害者の被保険者証記号・番号を把握している場合、DV被害者の被保険者証記号・番号を用いて資格確認端末からDV被害者の資格情報が閲覧可能となる。また、加害者が患者として、DV被害者の被保険者証を利用して資格情報を確認することも想定される。

○ 対応策

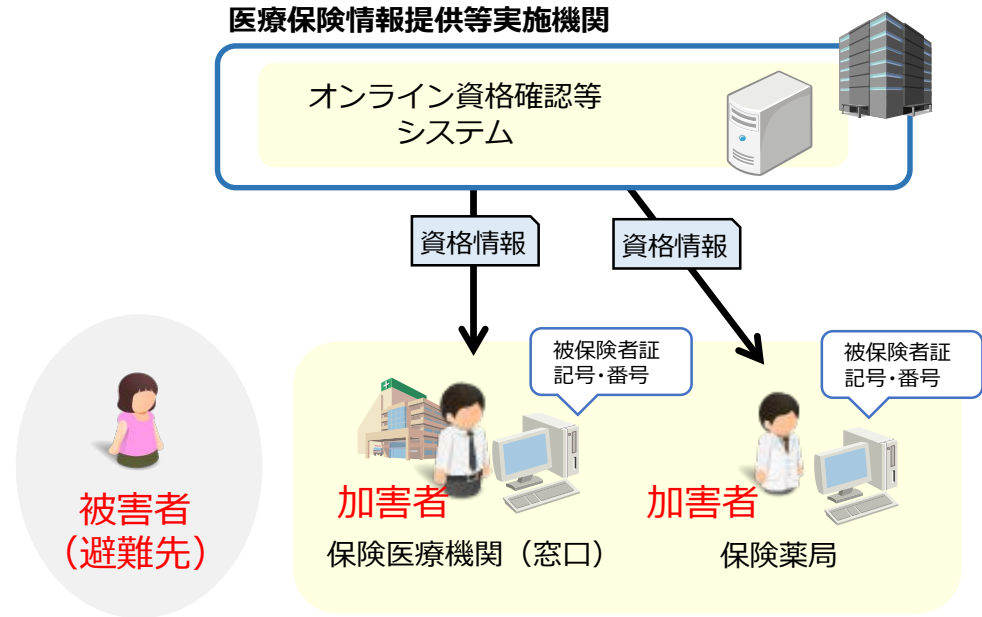
情報集約システムへ連携する資格情報（個人）ファイルの項番129「加入者情報 自己情報提供不可フラグ・不開示該当フラグ」に「3、4」を設定することで、医療保険者等向け中間サーバー等における自己情報提供不可フラグに「1：提供不可」が設定され、情報提供を制御する。

自己情報提供不可フラグが設定されている者については、マイナンバーカードによる資格確認が行えないが、被保険者証での資格確認が可能となるように、被保険者証での資格確認時は住所・郵便番号を非表示として資格確認を行えるようにする。

資格情報（個人）ファイル

項番129「加入者情報_自己情報提供不可フラグ・不開示該当フラグ」に0を設定

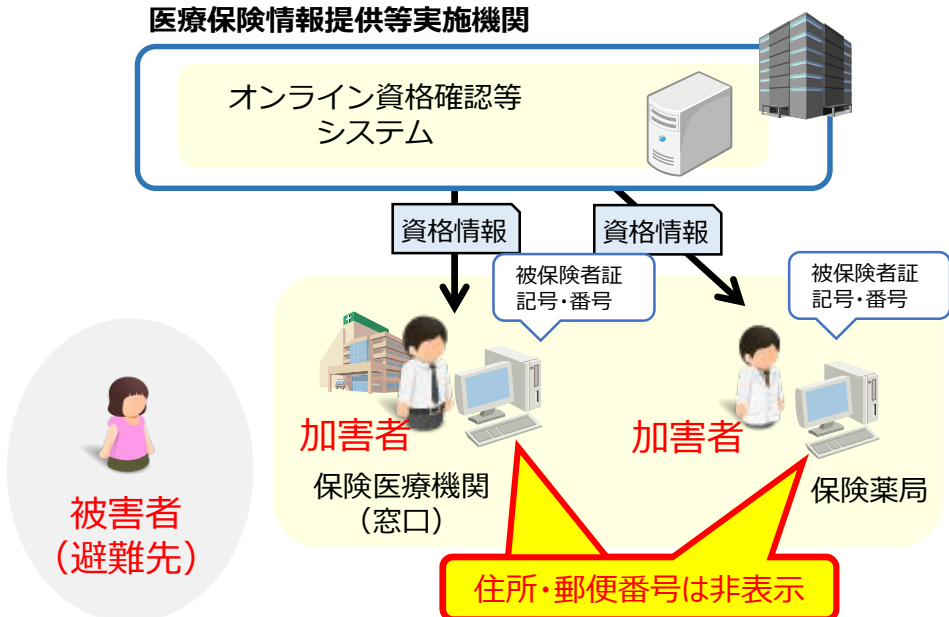
医療保険者等向け 中間サーバー	不開示該当フラグ「0：開示」、かつ 自己情報提供不可フラグ「0：提供可能」の場合
--------------------	---



資格情報（個人）ファイル

項番129「加入者情報_自己情報提供不可フラグ・不開示該当フラグ」に1または3、4を設定

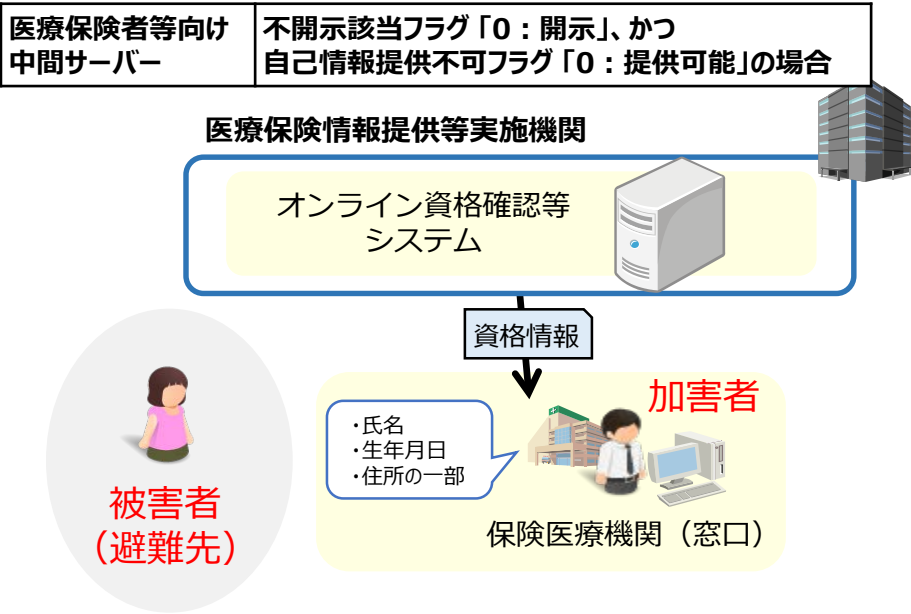
医療保険者等向け 中間サーバー	不開示該当フラグ「1：不開示」、または 自己情報提供不可フラグ「1：提供不可」の場合
--------------------	---



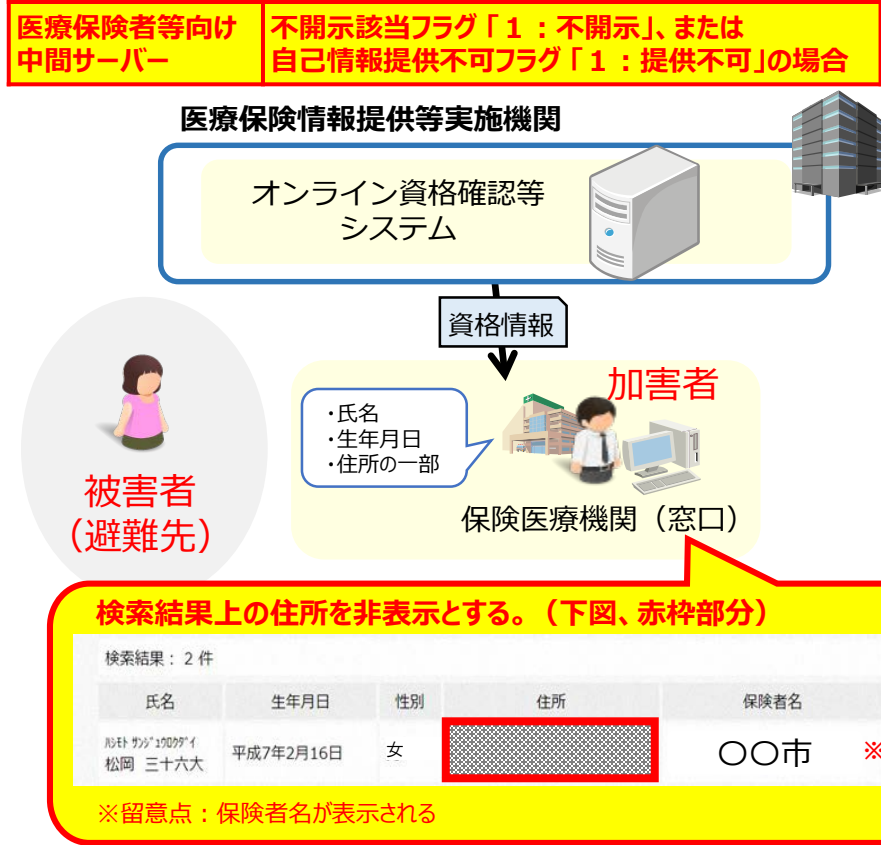
1-3-4. 課題と対策④「大規模災害・システム障害時のオンライン資格確認時」

- 課題
大規模災害（システム障害）時には、マイナンバーカードや被保険者証を持っていない場合も「氏名」、「生年月日」、「住所等の一部」を入力すると候補者の情報が一覧表示可能となるため、加害者（医療従事者）がDV被害者の情報を閲覧可能となる。
- 対応策
大規模災害時等は、マイナンバーカードを停止し自己情報提供不可フラグを解除した者であっても、「氏名」、「生年月日」で住所候補を閲覧できることから、DV被害者については、「1」を設定することで住所・郵便番号を非表示とする。
また、自己情報提供不可フラグ「3, 4」が設定されている者については、マイナンバーカードによる資格確認の検索結果上には表示されない。
しかし、有事の際に本人確認を実施できないと、保険診療を受けられないデメリットが生じるため、本フラグが設定されている者についても、住所・郵便番号を非表示とする。

資格情報（個人）ファイル
項番129「加入者情報_自己情報提供不可フラグ・不開示該当フラグ」に0を設定



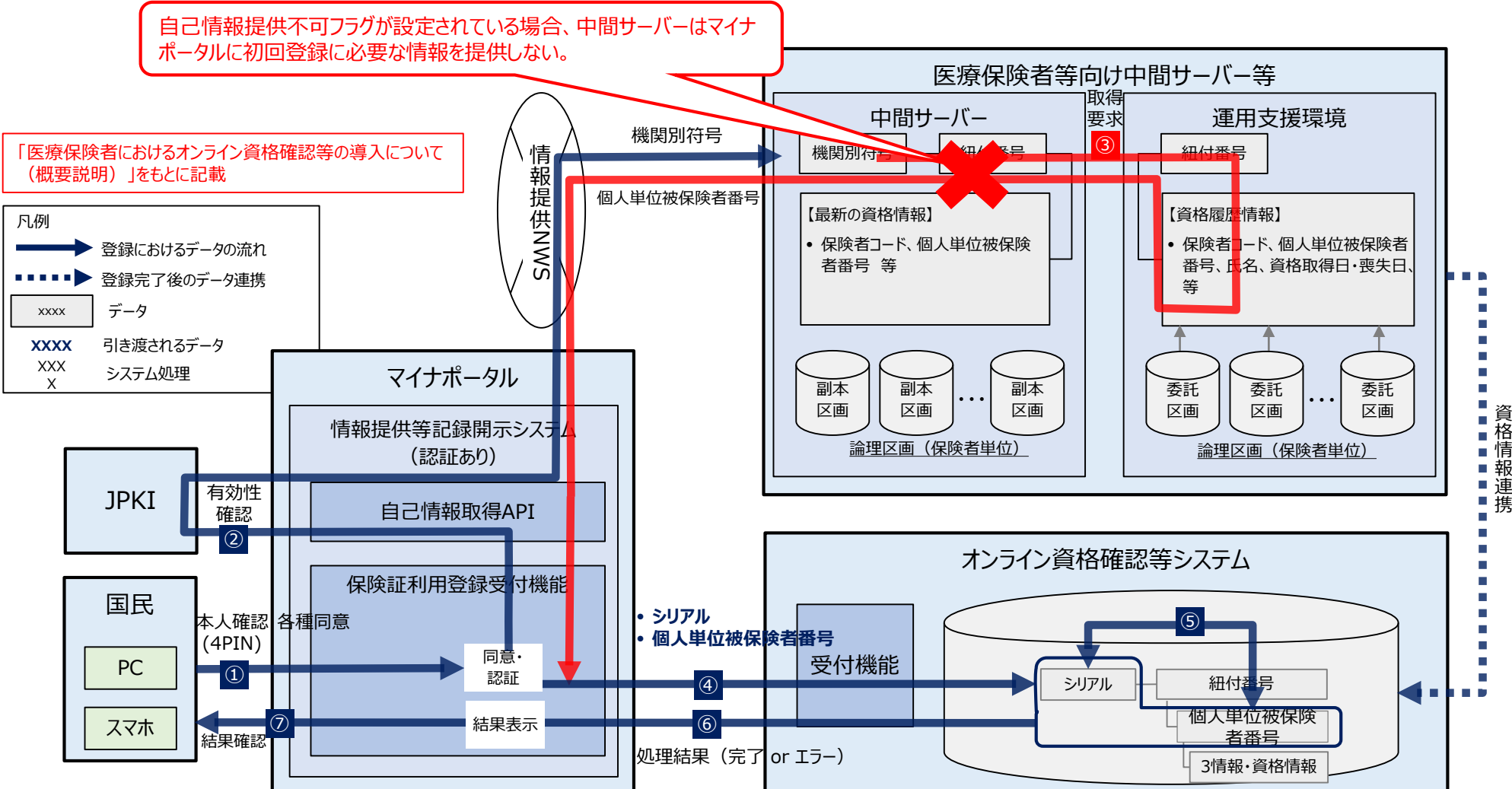
資格情報（個人）ファイル
項番129「加入者情報_自己情報提供不可フラグ・不開示該当フラグ」に1または3、4を設定



1-4. 留意事項：初回登録を実施できない場合について

マイナンバーカードを被保険者証として利用するにあたり、被保険者による保険証利用の登録（初回登録）が必要である。初回登録は、以下の通りマイナポータルの情報提供等記録開示システムを活用して行うが、**自己情報提供不可フラグが設定されている場合**、情報提供等記録開示システム（マイナポータル）から要求された自己情報の提供の求めに対し、該当する特定個人情報を提供しない制御となる。そのため、マイナンバーカードを被保険者証として利用するための初回登録が不可となる（2020年8月より開始された予約登録も同様）。

自己情報提供不可フラグはマイナンバーカードの再発行が完了するまでの間に一時的に設定するフラグであるため、マイナンバーカードの再発行が完了したDV被害者の自己情報提供フラグは適切に解除し、初回登録を行う必要がある。



1-5. 情報提供可否の判断方法

自己情報提供不可フラグは最新保険者の設定値で情報提供可否を判断し、不開示該当フラグは過去に一度でも設定されていれば情報提供不可であると判断することとする。

制御対象	フラグ	フラグの継続性	設定例（加入者が保険者A→B→Cと異動した場合）															
資格情報、 特定健診情報等、 医療費通知情報、 薬剤情報	自己情報提供 不可フラグ	最新の保険者に設定されているフラグの効力が過去の保険者にも適用される。※ 現在加入している保険者のみで判断可能。	<table><tr><td></td><td>保険者 A</td><td>保険者 B</td><td>保険者 C</td></tr><tr><td>フラグ</td><td>無</td><td>有</td><td>無</td></tr><tr><td>情報 提供</td><td>可</td><td>可</td><td>可</td></tr></table>				保険者 A	保険者 B	保険者 C	フラグ	無	有	無	情報 提供	可	可	可	保険者Bでフラグを設定していたが、 保険者C（最新保険者）でフラ グを設定していない場合、全保険 者でフラグが効力を発揮しない。
		保険者 A	保険者 B	保険者 C														
フラグ	無	有	無															
情報 提供	可	可	可															
	不開示該当 フラグ	以下の理由から、自己情報の保護を最優先し、過去いずれかの保険者でフラグが1つでも 有効な場合、その他の保険者においてもフラグ の効果を適用する。※ 【理由】 ・大規模災害時に資格確認を行う際には、マイナ ンバーカードを停止し自己情報提供不可フラグを 解除した場合であっても、資格確認端末で加入 者の住所を確認できてしまう。 ・不開示該当フラグの効力を継続させたとしても、 加入者の不便は微少。	<table><tr><td></td><td>保険者 A</td><td>保険者 B</td><td>保険者 C</td></tr><tr><td>フラグ</td><td>無</td><td>有</td><td>無</td></tr><tr><td>情報 提供</td><td>不可</td><td>不可</td><td>不可</td></tr></table>				保険者 A	保険者 B	保険者 C	フラグ	無	有	無	情報 提供	不可	不可	不可	保険者Cでフラグを設定していない が、保険者Bでフラグを設定してい た場合、全保険者でフラグが効力 を発揮する。
	保険者 A	保険者 B	保険者 C															
フラグ	無	有	無															
情報 提供	不可	不可	不可															

※過去の保険者にて設定されているフラグを書き換えるわけではなく、システム上でフラグの影響範囲を制御する。

2. （参考）医療保険者等向け中間サーバー におけるD Vフラグの運用例

2-1.（参考）医療保険者等の取る基本的なアクション例

医療保険者等は、DV加害者から避難してきた被害者に対して、①マイナンバーカードの停止、②不開示該当フラグ・自己情報提供不可フラグの設定および解除、③代理人設定の解除について案内をする必要がある。加入者（被害者）の運用フローについては次頁以降を参照。

D V被害者に対して保険者の取るアクションの流れ

#	STEP1				STEP2	STEP3	STEP4
フェーズ	加入者への案内				保険者の設定作業	代理人設定解除後の手続き	DV被害から逃れた後
アクション	マイナンバーカード停止	不開示該当フラグ申請	自己情報提供不可フラグ申請	代理人設定解除	フラグの設定※1	自己情報提供不可フラグ解除※1	不開示該当フラグ解除※1
詳細	<ul style="list-style-type: none"> 避難元にマイナンバーカードを置いてきた場合に対応必要 マイナンバーカード停止窓口は24時間365日稼働しているので、保険者は相談を受けたら、加入者に停止し、再発行してもらうよう案内する。 	<ul style="list-style-type: none"> 保険者は加入者にフラグ設定は、加入者の申請に基づき設定するものである旨、および各フラグの必要性を案内する。 	<ul style="list-style-type: none"> 避難元にマイナンバーカードを置いてきた場合もしくはDV加害者を代理人設定している場合に対応必要 保険者は加入者にフラグ設定は、加入者の申請に基づき設定するものである旨、および各フラグの必要性を案内する。 	<ul style="list-style-type: none"> DV加害者を代理人設定している場合のみ対応必要 保険者は、加入者にマイナンバーカード停止後、再発行したマイナンバーカードで、マイナポータルにログインし、代理人設定を解除するよう案内する。 	<ul style="list-style-type: none"> 加入者の申請に基づき※2、不開示該当フラグ・自己情報提供不可フラグを設定する。※3 	<ul style="list-style-type: none"> 保険者は加入者の申請に基づきフラグを解除する。※4 	<ul style="list-style-type: none"> 保険者は加入者の申請に基づきフラグを解除する。
理由	<ul style="list-style-type: none"> 加害者が被害者のマイナンバーカードを用いて、マイナポータル上で被害者の情報を確認できないようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報機関同士のやりとり履歴をマイナポータル上で閲覧できないようにする。 被保険者番号を用いて資格確認端末で住所等を確認できないようにする。 大規模災害時等に資格確認端末で住所等を確認できないようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 代理人権限のある加害者が被害者の情報を加害者のマイナポータルで確認できないようにする。 加害者が被害者のマイナンバーカードを用いて、被害者の情報を確認できないようにする。 被保険者番号を用いて資格確認端末で住所等を確認できないようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 代理人設定を解除することにより、加害者が被害者の情報を加害者自身のマイナポータルで確認できないようにする。 	—	解除を失念してしまうと、マイナンバーカードを被保険者証代わりに利用できない等の制約が生じてしまう。	

※1 詳細は以下文書を参照。

- 不開示該当フラグ・自己情報提供不可フラグ等の運用について
 - ・医療保険者等向け中間サーバー等との接続運用に係る運用管理規程（医療保険者等向け）
 - ・医療保険者等向け中間サーバー等との接続運用に係る運用実施要領（医療保険者等向け）
- フラグの設定・解除手順について
 - ・中間サーバーシステム操作マニュアル「12_不開示・自動応答不可・自己情報提供不可の設定」

※2 避難先市町村に避難しているDV被害者について、フラグの設定を要することが明らかな場合は、フラグの申出の有無に関わらずフラグ設定を行う。

※3 自己情報提供不可フラグが設定されている間は、初回紐付を行うことは不可。（詳細はP.11を参照）

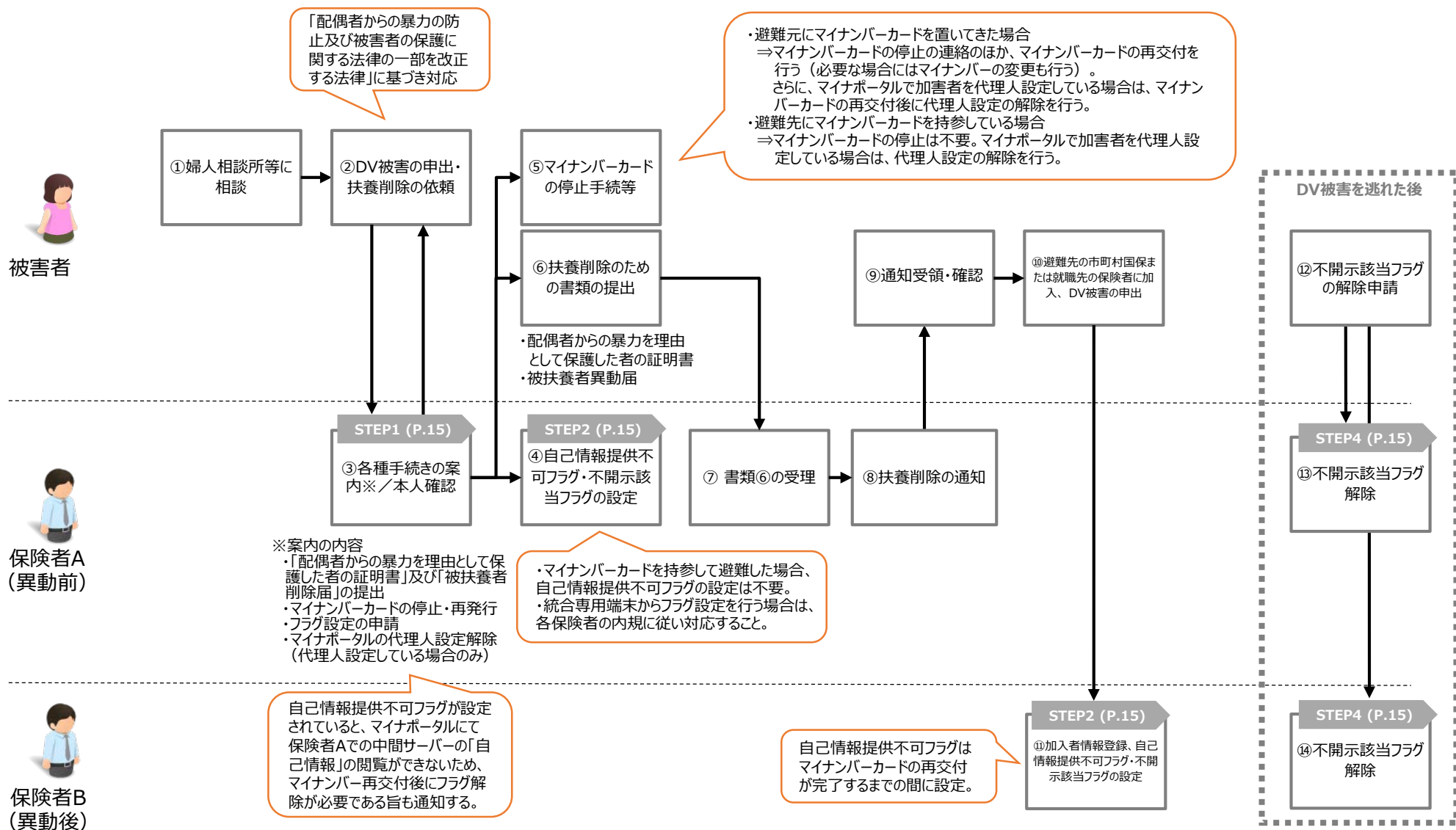
※4 自己情報提供不可フラグの解除後、初回紐付を行うことが可能となる。（詳細はP.11を参照）

2-2. (参考) DV被害者によるDVフラグの設定・解除に係る運用フロー (例) (1/2)

被用者保険
等向け資料

DV被害者が被扶養者である場合の「DV被害者によるDVフラグの設定・解除」に係る運用フロー例を以下に示す。

①被害者が被扶養者である場合



2-2. (参考) DV被害者によるDVフラグの設定・解除に係る運用フロー (例) (2/2)

被用者保険
等向け資料

DV被害者が被保険者である(加害者と別の医療保険者等に加入している)場合の「DV被害者によるDVフラグの設定・解除」に係る運用フロー(例)を以下に示す。

②被害者が被保険者である(加害者と別の医療保険者等に加入している)場合

